



主演：吉沢 亮

12月のげんもりかん映画会
 「ぼくが生きて、ふたつの世界」(105分)
 宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家族と少しだけ違っていたのは、両親の耳が聞こえないこと。幼い大にとっては、大好きな母の通訳をすることも「ふつう」の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京に旅立つ大だった。...

◆**料金** 前売券800円(当日券1000円)チケットは鶴瀬公民館で販売中。電話予約も可(平日 9時から17時)

◆**定員** 各266人

◆**場所** 鶴瀬コミュニティセンターホール

◆**とき** 12月13日(土) 10時、14時、18時(いずれも30分前開場)

げんもりかんで上映する意義とは?

★どこでも観ることが出来る作品ならわざわざ「げんもりかん」でやらなくてもいい。げんもりかんらしき「生活の中で大切なもの・元氣になってまた明日から頑張っ」て過ごしていく「そんな作品を上映するようにしています。(一同)

★公民館はキラリ☆ふじみができる前は市の中心施設でした。有効利用する、社会教育の場として、新しいコミュニティを作るなど地域に貢献できます。(岡ちゃん)

★地域の人が徒歩で来れる文化的なイベント。大きなスクリーンで映画の世界に浸ってもらえます。(加藤さん)

★チケットを渡すときに言葉をかわすのが嬉しい。自転車でも家でチケットを届けるのを楽しみに待ってくれる人も多い。(細川パパ)

★ホームページなどに載せず地域限定の催しをしています。1人でも来やすいように声掛けもしています。「みんなに見てもらいたい」という想いでやっています。(池ちゃん)

★とにかく映画が大好きな集まりです。(細川ママ)

祝げんもりかん25周年

鶴瀬コミュニティセンターで年2回開催している名作映画の上映会。主催は「げんもりかん」というサークルです。今年にはげんもりかん結成25周年ということで、今回はそのげんもりかんの特集をお届けします。

げんもりかんとは

げんもりかんは「元氣もりもり公民館」の略。コミュニティセンターのホールを利用して、市民に文化芸術に親しむ機会を提供しようと、平成13年(2001年)に活動を開始。今は年に2回、映画会を開催しています。

現在メンバーは9名。みんな映画が大好き。会議では、次回の上映作品等を、最近観た映画の情報交換をしながら、ワイワイとにぎやかに話し合っで決めていきます。「げんもりかん」で上映する映画はどれも良い作品ですね。」と観に来た方からの評判も上々です。げんもりかんのお知らせは年2回発行され、歴代上映映画やメンバーによる映画紹介などが載っています。公民館にお立ち寄りの際は是非お手にとりてご覧ください。メンバーも絶賛募集中!映画に興味のある方はぜひ鶴瀬公民館までお声がけください。



映画の選定方法

今回はげんもりかんメンバーの上段左から加藤さん、岡ちゃん、池ちゃん、下段左から岡ちゃん、細川パパ、ママ(写真外で南雲さん)に取材のご協力をいただきました。

上映する映画の選定方法ですが、まずはそれぞれの推し作品を持ち寄ります。その後、映画文化協会にフィルムが借りられるかどうかを問合わせます。金額も考慮して、最終的に上映作品を決めています。しかし、上映したい作品があっても長すぎたり、内容が重く、げんもりかんで上映できない...などということもあります。良い点は自分たちが良いと思った映画を共



Q&A

Q げんもりかんらしきとは?
 A 号泣はしないけれど見た後にじわっと涙が滲む。(両ちゃん)

Q 派手さはないけど訴えるものがある。(南雲さん)
 映画を観たあとにふっと気持ち前向きになっている。ちょっと元氣になって帰る、ということかな。(加藤さん)

Q げんもりかんとして映画だけではなくやってみたいことは?
 A 今は手一杯で他のことをする余裕はありません。映画を見つけて手配したり準備だけでも半年があつという間に過ぎます。新しいメンバーが加入してくることを期待しています。(一同)

Q チケットの販売方法は?
 A 会員のみなさんで、知り合いの輪に販売しています。また、常連さんもいます。昔は手売りでしたが今は公民館でも購入できるので助かっています。げんもりかんならはずれなし、と来客してくれる方もいてありがたいです。(一同)



映画会に合わせて発行している「げんもりかんニュース」

6月上映「本日公休(台湾)」を観た編集委員の感想

本年度は、25周年記念公開とあって、記念価格500円とのことでお恥ずかしながら、初めて(げんもりかん)の映画鑑賞をしました。この映画は、台湾の理髪店の女店主が、店を「公休」にして離れた所に住む常連客の病床に髪を整えに出かけるという話の中で、人と人とのつながり、家族の絆に温かい気持ちになり、感動しました。普段は、好きな役者さんが出ていたり、CMなどで予告を観てから、興味を持った物を選んで観ていました。げんもりかんの映画会は、自分からはなかなか選んで観ることができません。公民館近隣に住まいのお客様も多く、気軽に映画鑑賞を楽しんでいるようです。映画館とは違って、コミセンのホールはトイレが近くにあるので行きやすいとの声も聞きました。

有できることです。外国映画ならその国の雰囲気や伝わり、行っても行かなかった気になります。同じ人間同士、通い合うものがあると思えます。チケット代も安価なので安心です。上映はされなかったのですが、メンバーの心に残った作品は「シヨウシャンク」の空に(米)」。テレビ放映が何回あったのと上映時間が長かったためです。今まで上映した作品には、遠くに足を運ばないと観に行くことのできない作品もあり、映画は他の国の習慣や文化、風景を知ることが出来ます。令和4年(2022年)はコロナ禍の中、対策をし「タクシー運転手(韓)」、「グリーンブック(米)」を上映しましたが来場者は少なかつたです。歴代で入場者数が多かつた作品は、「おくりびと(げんもりかんでの上映は2003年)」、「694人」、「たそがれ清兵衛(2003年)」、「680人」、「フラガール(2007年)」、「547人でした。

